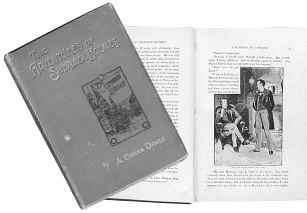


表紙に掲げられた資料の解説

DOYLE, A. Conan *The Adventures of Sherlock Holmes* London, 1892

ドイル『シャーロック・ホームズの冒険』

コナン・ドイル(Conan DOYLE, 1859-1930)はスコットランドの官吏の家に生まれ、苦学してエディンバラ大学で医学を修めた。1882年にサウスシーで開業したが一向に患者が来ず貧乏な生活を続けた。その後ロンドンに出て眼科医として開業したが、相変わらず患者が来なかった。彼がこのような閑散とした医者生活の中で執った文筆から、世界的に有名なシャーロック・ホームズが生まれたのである。



シャーロック・ホームズ物語は長短合わせて約60編あるが、舞台が19世紀の末であるにも拘らず、その奇抜な着想、緻密な推理、巧妙な筋の運びで古さを感じさせない。ドイルは雑誌社から読切短編を依頼され、1891年7月から1892年6月まで毎月一編ずつ発表したが、これが読者の熱狂的歓迎を受けて雑誌の売行きが数倍になったといわれる。同年にこの粒揃いの12編を集めて『シャーロック・ホームズの冒険』(The Adventures of Sherlock Holmes)がロンドンで発行された。本書はその初版本である。彼の短編では

シャーロック・ホームズの友人ワトソンが記録したことにして書かれているが、どの物語でもホームズがすばらしい素人探偵として科学的捜査に活躍する。

「探偵小説はドイルに始まってドイルに終わる」といわれるように、探偵小説というジャンルはコナン・ドイルによって確立されたといえることができる。

『洋書百選』(1972年 本学図書館刊行)より抜粋し、加筆

+ 知られざる小国 スイス <4>

- 橋の街ルツェルン -

今回で4回目の連載になったこのコラムで、皆さんはあの小さいスイスにこれほどの見所があることを驚かれたのではないだろうか。ルツェルンもまた、すでにご紹介したベルンやベリンツォーナに劣らず美しい景観を持つ町である。スイス人は自分の住んでいるカントンへの帰属意識が高く、なかなか他の町を褒めない人が多いが、この町は他州のスイス人もその美しさを認めるほどである。



この町に着いてまず目に付くのは、スイス五大湖の一つであるフィアヴァルトシュテッテ湖にかかるカベル橋である。全長200mのこの屋根付き橋は1333年に造られ、ヨーロッパ古い木造橋なのだそう。屋根の梁には110枚の板絵があり、これにはルツェルンの守護聖人が描かれている。この橋と1834年に取り壊されたホーフ橋は町の防備施設の一つであったという。そしてもう一つの屋根付き木造橋シュプロイヤー橋は下流の町との交通路として役立った。尚この橋の名(Spreuerbrücke)の由来は、当時もみ殻やわらくず(Spreu)をこの橋からのみロイス川に流してもよかったからである。この橋の切妻にもやはり65枚の板絵があり、ここには死の舞踏といって、死神が人間を墓場に導く図が描かれている。少々気味が悪い気もするが、これは中世後期の絵画に好んで用いられた主題なのだそう。

今日では上記の2つの橋が有名だが、その他この町の成立に大きく貢献したロイス橋や湖と川の境目に架かるゼー橋、アウトバーン橋なども見過ごせない。もちろんそれらの橋から見える景色は、きっと訪れる人の期待を裏切らないだろう。

1999年度 ドイツ語学科卒業生 野澤 育子